

PICK UP!

男女共同参画の視点で読む  
**世界の格言・名言**

私は、一人の人に可能な  
ことは、万人に可能である、  
と常に信じている。

マハトマ・ガンジー



弘前市民参画センター事業紹介「第2回市民ボランティア交流まつり」ほか P 2・3  
おとこの気持ち聞いたやいました「知らずに男女共同参画している人」 P 4  
さんかくひとりごと「しつけ」や「愛のムチ」という名の体罰はあり?」 P 4  
利用者・利用団体紹介「ボランティア支援センターボランティアスタッフ」ほか P 5  
まなぼ「弘前市男女共同参画プラン」第3回 P 6・7  
本の紹介「理系女子(リケジョ)的生き方のススメ」 P 8  
センターからのお知らせ P 8



## 第2回市民ボランティア交流まつり

10月21日、市民参画センターで「市民ボランティア交流まつり」を開催しました。日頃、市民参画センターやボランティア支援センターを利用しているグループが、展示や活動発表を通じて交流を深めました。

昨年度に続き2度目の開催となつた今年の交流まつりには、絵手紙、フラワーアレンジ等の趣味を楽しむサークルや、自然保護団体、社会福祉法人など37の団体が参加し、活動発表をはじめ、活動内容を紹介するパネルや体験コーナーでそれぞれのグループをPRしました。

交流まつり実行委員会による飾りが目を引いた市民参画センターの玄関

記念講演会では「3・11絵本プロジェクト」事務局長で、盛岡市中央公民館主幹兼館長補佐の赤沢千鶴さんが「絵本がつなぐ仲間たち」と題して講演しました。赤沢さんは東日本大震災の被災地の子どもたちに絵本を届ける活動を行っており、活動を始めた経緯や各地での反響を紹介しました。今年の交流まつりには約350人が来場し、さまざまなグループの活動発表や、ハンドマッサージの体験、福祉施設利用者による野菜や焼き菓子などの販売コーナーを回りながら、思い思いに楽しんでいました。



自身の体験や活動を交えて講演する渋谷江津子さん



赤沢千鶴さんによる記念講演会の様子

12月2日、ひとにやさしい社会推進セミナーを市民参画センターで開催しました。

今回のセミナーは、「家族が幸せになるための男女共同参画」と題し、弘前文学学校事務局の渋谷江津子さんが講演しました。

渋谷さんは地元紙にエッセイ「嫁と姑」を連載しており、その中から家族の在り方と男女共同参画について、「人生は皆、家族で始まり家族で終わるが、今の家族は癒しの場ではなく、ストレスの場になっていることも多くなっている。家族が幸せになるためには、家族で会話をすることが大切だと思う」と意見を述べました。

とくに会話をするときに心がけてほしいこととして、渋谷さんは心を傾けて傾聴する、会話を混ぜ

ながらオウム返しをする、何を話したいか明確化する、相手の話に共感する、という4つのポイントを紹介し、「ぜひ覚えて実践してほしい」と参加者にアドバイスしました。

また、渋谷さんは「男女共同参画社会を家庭で実践するときには、夫と妻がお互いを尊重し、支え合う」という基本中の基本を忘れることが絶対にあってはならない」とも話し、25名の出席者は家族の方と男女共同参画について真剣に学んでいました。



男女共同参画と家族の在り方について耳を傾ける参加者

## ひとにやさしい社会推進セミナー

# 平成24年度第2回さんかくシアター

12月13日、今年度第2回目の無料ビデオ上映会「さんかくシアター」を市民参画センターで開催しました。

今回のさんかくシアターでは、認知症で徘徊を繰り返す祖父と、その世話を困惑する家族が、崩壊しきながらも徐々に絆を取り戻していく姿を描いた日本映画「ホーム・スイートホーム」を上映しました。

企画運営には「認知症の人と家族の会弘前地域世話人シアター実行委員会」が参画しました。上映に先立ち、会を代表して司会進行を務めた東谷康生さんが「認知症の人と家族の会」の活動を説明しました。東谷さんは、会員同士が悩みを話し合つて共有したり、講



司会進行を務める  
東谷康生さん

参加者は映画と当事者の体験談を通じて「認知症になつた方の心に寄り添うことが大事だと感じた」「介護は女性だけ、男性だけといふことではなく、ともにかかわっていかなければならぬ」と思うなど、老いや介護の問題についてあらためて考えていました。

座を開催して認知症に対する理解の普及に取り組んでいることなどを紹介しました。また、上映後には、2名の会員がそれぞれの家族の介護について実体験を語りました。



上映会に集まった参加者

## 「さんかくネット」子育てサポーター研修会

12月20日、弘前市子育てサポートシステム「さんかくネット」の子育てサポーター研修会を市民参画センターで実施しました。

今回の研修会では、東日本大震災以降、防災意識が高まり、救急救命処置の知識を身につけたいというサポーターからの要望を受け、託児中の防災の注意点や事故の対処法などを学びました。

研修会には14名のサポーターが出席し、弘前地区消防事務組合の中村英樹さんから心肺蘇生法やAEDの使い方について、実践を交えた講習を受けました。

乳幼児とかかわる機会が多いサポーターのため、中村さんは救護する相手が子どもだった場合の胸骨圧迫のポイントや、のどに詰まつた異物の取り除き方などを説明し、サポーターは順番に人形で体験しながら救命の手順を確かめました。



胸骨圧迫の方法を説明する中村さん



子育てサポーター  
乳児の人形で練習する

受講したサポーターからは「実践中心だったのでとてもよい経験になった」「分かりやすく説明してもらえてよかったです」などの感想が寄せられました。

Q. 男女共同参画って知っていますか？

A. 知らない。全然知らなかった。

Q. 女性のトップをどう思いますか？例えば政治家、社長を？

A. 能力のある人は、大いに結構。どんどん進出してほしい。

Q. ボランティアでスキーを教えていますが、男の子、女の子で教え方は違いますか？

A. 基本的に同じです。子どもの個性を見て対応しているつもりです。

Q. 体罰をどう思いますか？

A. しつけは必要だと思うが、暴力は必要ないとと思う。

Q. 自分でできる家事は何かありますか？

A. 実家が自営業で忙しかったので、一応何でもできます。私が定年後は、妻が仕事をしているので、分担は半々かな？（笑）。

Q. 人生のパートナーはどんなとき必要ですか？

A. 体力的に、気持ち的に、自分が弱くなったときかな（照笑）。

Q. 男らしさ、女らしさをどう思いますか？

A. 男らしさは「元気、活発」。女らしさは「優しさ」。男女は同じではないので、違いを生かしてこそ成り立つのでは…？

## おとこの気持ち



60代・無職・既婚

聞いちゃいました

..... インタビューを終えて

### ～知らずに男女共同参画している人～

スキー焼けで浅黒い顔は健康そのもの。お話をしていて、ときどき照れて下を向くところは、シャイな団塊の世代が感じられる。現役時代は仕事人間。今は公民館、体育館、緑の相談所と多忙な（？）日々を送っている。でも、一番の楽しみはお孫さんたちと一緒に過ごすときのこと。“理想の退職後”ではないだろうか。

梅

## ～「しつけ」や「愛のムチ」という名の体罰はありますか？～



体罰とは「肉体に直接苦痛を与える罰」、愛のムチとは「愛するがゆえに厳しく叱りつけること。その人のためを思ってする叱責」のことらしい。このことから考えると体罰は決して愛のムチとは言えないだろう。

昨年末、高校バスケットボール部キャプテンの自殺をきっかけに、体罰をめぐる論争が巻き起こった。自殺の原因がコーチの体罰にあったかどうかはつきりしないということだが、男子生徒が残した遺書には、コーチの体罰に対する悩みが綴られていたという。

近年、しつけという名のもとに親からの行き過ぎた体罰を受ける子どもたちが多い。小さい頃は親や先生から体罰を受けた経験を持つ中高年の方が多いと思う。私自身もお尻を叩かれた思い出がある。でも、それなりに理由があったような気がする。

ある精神科医は、「体罰やDV（ドメスティックバイオレンス）など暴力的な関係性を作られると、それが一種の絆のように感じてしまう傾向がある」と言っている。

暴力を振るう側は「これはお前のためだ。愛のムチなのだ」といって自己を正当化し、振るわれる側は「悪いのは自分なのだ」とその責任を背負って、暴力を振るう側を擁護し、絆を維持しようとするところ。

体罰のどこが問題なのか？暴力や虐待と紙一重の行為なのではないだろうか？どうしても弱い立場の人間が受ける側になる。身の周りの問題から目をそむけることなく考えたいものだ。

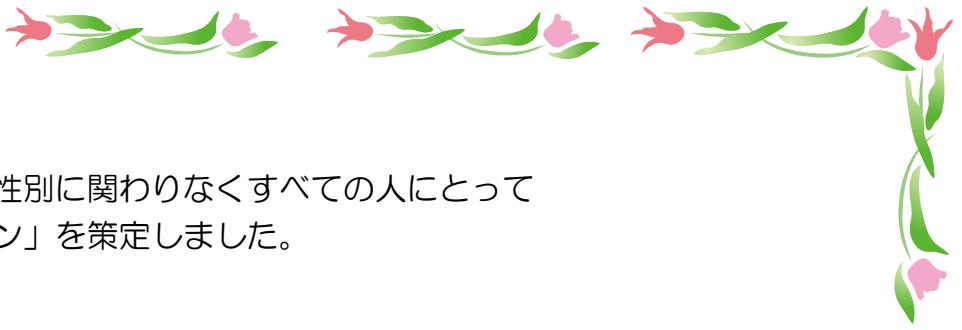


さんかく  
ひとりごと



# 同参画プラン

## あふれる弘前の実現 ~



生き方や価値観の多様性を認め、性別に関わりなくすべての人にとってとして「弘前市男女共同参画プラン」を策定しました。

ンを3回に分け紹介します。

### 【重点目標1 2 生涯を通じた男女の健康支援】

#### 《主な取り組み》

- ★ 健康診査を受ける機会の少ない家庭の主婦等を対象にした健康診査の実施
- ★ 高齢者の健康診断受診率向上を図り、また介護予防のための健康体操の普及や、健幸ひろさきマイレージ制度への参加促進
- ★ がん検診の受診率向上・病気の早期発見早期治療を促進するため、講演会やPR活動、実態調査等を実施
- ★ 受動喫煙による健康被害を防ぐため、公共的施設での分煙と喫煙規制を強化
- ★ 母子保健福祉の窓口サービスの相談体制の充実（赤ちゃん電話健康相談・妊婦窓口相談・乳幼児医療費給付事務等のワンストップサービスの提供）

施策の方向1  
生涯を通じた  
男女の健康支援



#### 《主な取り組み》

- ★ 市民の健康増進や、健康に対する不安の解消を目指し、気軽に参加することができる場の提供〔市民健康まつり〕
- ★ ポスターの作成や掲示、ラジオコマーシャル等による普及啓発を通し、自殺予防など市民の心の健康づくりを推進
- ★ 保健師が心身に関する個別の健康相談に応じて、必要な助言・指導を実施

### 【重点目標1 3 メディアにおける男女共同参画の推進】

施策の方向1  
メディアにおける  
男女共同参画の推進



#### 《主な取り組み》

- ★ 弘前記者会加盟各社への男女共同参画関連施策やイベントに関する積極的な情報提供
- ★ 市の刊行物、広報誌等における人権侵害となる表現の撤廃

【成果目標】 …各種がん検診の受診率を19.1%(H21)から+5ポイント(H25)とします。また、公共施設における受動喫煙防止対策実施施設の割合を97%(現状)から100%(H25)とします。

これまで「弘前市男女共同参画プラン」を3回に分け紹介してきましたが、くわしい内容については市ホームページでも確認できます。〔弘前市役所ホームページ⇒行政情報⇒計画・取り組み⇒男女共同参画⇒弘前市男女共同参画プラン〕

または、市民参画センター、市各施設《市役所、各支所・出張所ほか》の刊行物閲覧コーナーでご覧ください。



# 弘前市男女共 ～一人ひとりの笑顔が

弘前市では、市民一人ひとりの自己実現を可能にするために、個人の生きやすい男女共同参画社会の実現を目指して、より実効性のある計画  
計画期間は平成24年から平成28年までの5年間とします。このプラン

## ○基本理念と基本目標

本プランの基本理念を「一人ひとりの笑顔があふれる弘前の実現」とし、その達成のために次の5つの基本目標を掲げ、男女共同参画社会の実現を目指します。

<b>基本目標Ⅰ</b>	政策・方針決定過程での男女共同参画の促進……………(第1回)で紹介
<b>基本目標Ⅱ</b>	男女共同参画社会形成への意識づくりと定着……………(第1回)で紹介
<b>基本目標Ⅲ</b>	職場、家庭における男女共同参画の推進……………(第2回)で紹介
<b>基本目標Ⅳ</b>	地域社会における男女共同参画の推進……………(第2回)で紹介
<b>基本目標Ⅴ</b>	一人ひとりの人権が尊重される社会の形成……………(第3回)で紹介

## ○基本計画の推進

基本計画の進ちょく状況を客観的に評価するものとして、基本目標ごとに「成果指標」を設定しています。この他、基本計画の進ちょく状況を評価する上での参考として、具体的な事業にあたる主な取り組みについても「活動指標」を設定します。

これらの指標を基に、市民の代表等で組織するアドバイザリー会議で評価・点検し、その結果を市役所の関係課へフィードバックして施策等に反映できるようにします。また、広報等を通じて市民に公表します。

## 基本目標V 一人ひとりの人権が尊重される社会の形成

一人ひとりの笑顔があふれる社会の実現のためには、性別、世代、生活環境などにとらわれることなく、それぞれの人権やライフスタイル、価値観を互いに認め合わなければいけません。

男女がお互いを尊重し、ともに助け合い、それが自立した生活を送ることができるような環境整備を図ります。

### 【重点目標11 女性に対するあらゆる暴力の根絶】

施策の方向1  
暴力防止のための  
環境づくり



#### 《主な取り組み》

- ★国や県、その他関係団体と連携し、女性に対する暴力防止に係る意識啓発及び対応への取り組みを強化
- ★防犯協会や町会連合会などと連携した自主防犯意識の高揚促進や、モデル地区を選定した上で自主防犯活動支援策の展開を図り安全・安心のまちづくりを推進

施策の方向2  
暴力被害者からの  
相談対応の充実



#### 《主な取り組み》

- ★市の家庭児童・婦人相談室及び少年相談センターに婦人相談員を配置し相談受付を実施
- ★セミナー等によるDV(ドメスティック・バイオレンス)に関する正しい理解の促進

# 弘前市民参画センターって？

## 男女共同参画の活動拠点

参画センターでは男女共同参画社会形成に向けた意識づくりのために、セミナー・講演会・講座などを開催しています。また、女性の人才培养及び活動を支援し、市民のさまざまな学習活動、交流活動や情報収集の場を提供しています。

## 子育てサポートシステム「さんかくネット」

一時的に子どもを預かってもよい人（子育てサポート）を登録し、仕事や社会参加で一時的に子どもを預かってほしいという保護者の依頼に応じて、参画センターが仲介します。子育てサポートへの研修会も行っています。



☎0172-31-2501

## ボランティア支援センター

ボランティアに関心のある人や活動希望者、ボランティアを必要としている施設・団体などからの相談に応じ、コーディネートを行っています。

「一日体験ボランティア」、「ほっと・ぽらんていあ」などを実施。情報紙「ふくろう通心」の発行やホームページなどを通じて情報発信をしています。



☎0172-38-5595

メール vsc@hi-it.jp

<http://www.hi-it.net/~vsc/>

## 編集後記

プロンプトンという折畳み自転車を一昨年から愛用している。小さく可愛らしい外見ながら走行性能は高く、畳むと旅行カート程の大きさで電車やバスに楽々持ち込む。旅好きだが車を運転できない私にとって最高の相棒だ。「二人」で既に千kmを走破したが、未だに春の訪れと共に足が疼く。さあ今年も行くか、相棒よ。 N

## 弘前市民参画センター

〒036-8355 弘前市大字元寺町1番地13

TEL 0172-31-2500

FAX 0172-36-1822

開館時間 9:00～22:00

休館日 12月28日～1月3日

[http://www.city.hirosaki.aomori.jp/gaiyo/shisetsu/kyouiku/htm\\_sankaku/framepage.htm](http://www.city.hirosaki.aomori.jp/gaiyo/shisetsu/kyouiku/htm_sankaku/framepage.htm)

## 本の紹介

### タイトル

#### 「理系女子(リケジョ)的 生き方のススメ」

美馬 のゆり 著  
岩波ジュニア新書 刊



～リケジョ的視点で楽しく生きる～

移動中のラジオから流れてきた「リケジョ」という言葉に、「リケジョ？」何のことかピンとこなかった。リケジョに当てはまる漢字が想像できなかったのだ。ようやく「理系女子」のことだと分かって、リケジョに興味を持ちこの本に出会った。

岩波ジュニア新書の〈知の航海〉シリーズから刊行されていることもあり、読者は中高生が対象かと思いきや、進路や生き方に悩む女子に限らず、年代、性別、職業に関係なく、全ての読み手に生きていくうえでのヒントを与えてくれる本だと実感した。

「リケジョ的視点で生活する」という第1章では、ひとりで生活するうえで必要不可欠である家事が話の中心になっている。炊事、洗濯、掃除というとこれまで女性の仕事という考え方多かった。なぜだろう？と問いかける。歴史的な経緯や、外国ではどうだったかなどが盛り込まれている。リケジョの一人で、料理が得意だという著者が、料理を科学的視点でとらえるとどうか、どうすれば上手にできるようになるかなど、なかなか興味深い内容である。

また、リケジョ的視点で生活圏内の社会を観察すると、いろいろな場所に「何か変」ということがたくさんあるという。その「何か変」なことが、たくさん述べられていて、そういう見方や考え方があるのに気づくのもおもしろい。「何か変」から「どうしよう」まで発展できたらもっといいかも。他にも、リケジョの仕事のしかた、「リケジョ力」を未来に活かす、など充実している。理系女子(リケジョ)的生き方のススメをのぞいてみませんか。

by komori

